



アグリ A G R I

茶工場内の清掃や摘採機、製茶機の点検と清掃を早めに行い、余裕を持って一番茶に臨んでください。近年、茶工場内や乗用型摘採機での労災事故が多発しています。工場内では、一緒に働く仲間の仕事内容を把握し、声掛けを行い、乗用型摘採機での作業は、時間と気持ちに余裕を持つて、無理な行動は避けましょう。

製茶機械の点検清掃

新芽に触れたり軽く握ったりした手触りで、新芽の生長度を判断します。新芽が生長するときの展開葉は、開葉後に葉面積を拡大すると同時に肥厚し、節間は肥大と同時に硬化します。新芽を握ったときに反発力が強くなるので、感覚的に判断することができます。

摘採適期が1日遅れると、収量が8~12%増加し、全ちつ素含有率は0.1%減少します。摘採位置を1cm上げることで、全ちつ素含有率は0.1%増加します。自身の茶園の生育状況を把握し、適期よりも早めの摘採を心掛け、戦略的に無駄のない計画を立てましょう。

摘採適期の判定は、いくつかの方法があります。

出開き度

生育終期に新芽の展開がいったん終わり、芯が小さくなつて出開き状態になります。一定面積内の新芽の数に占める出開き芽の割合を出開き度といい、一番茶では50~80%が摘採適期です。

硬化度

また、茶芽は、萌芽期間近になると温度反応性が敏感になります。気温の高低や凍霜害の影響が大きくなり、萌芽期が遅れることが多いです。このような状況も考慮して、予測結果と日頃の観察で、生育の早晚を判断するのもいいかもしれません。参考までに、茶の萌芽期は桜の満開日とほぼ同じと言われているので、茶の生育予測にも利用できるとされています。

暖かくなると冬季の休眠から目覚めて、茶芽が生長を始めます。新芽の長さが包葉の倍の長さになった時を萌芽といいます。萌芽期とは、萌芽が全体の70%を超えた時で、管内では3月下旬~4月上旬ころです。

萌芽期や摘採時期の予測は、積算気温などさまざまな方法がありますが、気温の変化を前提にしているため、暖冬や厳冬、干ばつなどの異常気象があると予測がされることもあります。

萌芽期から一番茶まで

茶指導販売課 福手 裕三

